

☆子どもの発達段階や特性を把握したうえで、パネルシアターを作成し演じると子どもにとって、よりわかりやすい楽しいものとなります。

☆以下の内容を参考にしてください。

1. 発達段階をおさえる

あらためてのことですが、年齢別にみると以下の内容が適しているかと思います。

- ① 1歳前後:簡単なものの名前もの 一つのものに注目できるようにする
- ② 2歳前後:身近な生活場面に関するものや事柄 なじみのある歌などあるもの
- ③ 3歳前後:繰り返しの内容や歌の入ったもの 車、電車、食べ物なども
- ④ 4歳前後:文字や数字が入ったものも 日ごろの園生活の内容なども
- ⑤ 5歳前後:ゲーム感覚で楽しめるもの 起承転結のある簡単な話など

2. 特性のある子どもに関して

一概には言えませんが、以下のような点はおさえておいた方がいいでしょう。

- ① お話が繞くとあきてしまい、注目できません。
簡単な歌遊びの内容や、よく歌っている歌の内容が好まれます。
例:「お弁当箱のうた」「カレーライス」「はたらくくるま」「数字の歌」 など
- ② 必ずしも絵人形にしなくてもいいです。
写真の方が現実的でよく見たり、日常とかけ離れていないので、興味をもったり、わかりやすい子どももいます。
例:新幹線の写真、お弁当の写真、広告の写真 など
- ③ 刺激が多いとわかりづらく見ない子どももいます。
絵人形をいっぱい出しすぎたり、展開がはやかったりすると、どこを見ていいかわかりません。
刺激を少なくして、見るポイントを絞ったほうがいい子どもも多くいます。
例:ブラックライトシアター「おばけなんてないさ」「おもちゃのチャチャチャ」
「ゲゲゲの鬼太郎」「あわてん坊のサンタクロース」 など
- ④ 導入を工夫する。
パネルシアターに入る前に、軍手人形で注目させたり、音楽をかけて落ち着かせたり、自然にパネルシアターに注目できる準備をするといいいでしょう。